

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 全国学力・学習状況調査の概要

本調査は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的として、全国の中学3年生を対象として、本年度4月20日(月)に英語(書くこと、読むこと)と生徒質問、4月23日(木)に国語・数学の2教科、5月1日(金)に英語(話すこと)の調査を実施しました。

2 今回の調査から 各教科 領域ごとの結果

【国語】

<成果>

- ・知識及び技能における「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」について全国、県の平均を上回る正答率である。
- ・問題形式として短答式の問題に対して全国、県の平均を上回る正答率である。
- ・情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができている。

<課題>

- ・今年度は設問に対して適切に資料と自身の考えを結びつける思考力が十分とは言えず、文と文とのつながりを意識した記述には課題が見られた。
- ・文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉えることに課題が見られた。
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうか課題が見られた。

【数学】

<成果>

- ・全ての問題に対して、無解答率は低く、解答しようと試みている。
- ・比較的日常生活の中で用いられる数学的思考を求められる問題に対して、問題によって差異はあるが全国、県の平均を上回る正答率である。

<課題>

- ・基本的な三角形の証明問題は正答率が低かった。証明には課題が見られ、継続的な学習や反復練習が必要である。
- ・箱ひげ図と四分位数の対応について理解については課題が見られ、データの活用の領域について学習を強化する必要がある。

【英語（聞く・読む・書く）】

<成果>

- ・選択式の問題に対して高い正答率である。
- ・社会的、日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができる。

<課題>

- ・事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことなどの記述式の問題に対する正答率が県、全国の平均の水準より低い傾向にあった。自分の考えを英文で表現する活動を一層充実させる必要がある。
- ・日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることに課題があった。

【英語（話すこと）】

<課題>

- ・日常的な話題について事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことに課題が見られた。

【生徒質問用紙】

○朝食を必ず食べると回答している生徒が75%となり、年々減少傾向にある。(全国平均を下回っている)

○1日(平日)当たりの SNS などの動画視聴が2時間以上と回答している生徒が約80%いる。

- 「自分には良いところがある」「先生はあなたの良いところを認めてくれている」と肯定的に答えた生徒の割合が全国平均を上回った。
- 「学校に行くことが楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的に答えた生徒は全体の90%を超えている。全国平均を大きく上回った。(昨年度同様)
- 授業でのタブレット活用の比率が全国に比べて非常に高く、年々上昇傾向である。プレゼンテーション作成やグラフ、表などの作成ができると回答している生徒が非常に多い。
- 将来の夢や目標を持っていると答えた生徒の割合は全国平均に対してやや上回った。
- 平日、休日ともに家庭学習や学校以外での学習時間の状況は全国平均と比べやや低い結果であり、例年に比べ短い結果となっている。
- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」では、「特に当てはまる」と答えた生徒の割合が全国平均を大きく上回った。

3 成果と課題

各教科の分析から

国数については、短答式について比較的高い正答率であった。しかし例年高かった記述式の解答問題への正答率が低下している背景から、本校では知識を活用して自分の考えを表現する力に課題があり、今後は思考力、判断力、表現力の育成につながる学習活動の充実を図っていく。英語「聞く・読む・書く」については、自ら考えた文章を英語で表現することに至っておらず、より丁寧に理解させ、単語、文法への繋がりを持たせていく必要があると考えられる。また「話すこと」について、完璧である必要がないことの指導と、間違ってもよいからゆっくりと単語を並べることから始めていくことが必要だと考える。

生徒の生活習慣(睡眠時間・約束を守ること・スマホ使用の時間・校外での勉強時間)に関する調査の結果は例年に比べ、低い傾向が見られた。調査結果からはスマートフォン等の利用時間が長い傾向や、家庭学習・生活習慣に課題が見られた。今後も望ましい生活習慣の定着に向けて、子どもの健全な環境を整えられるように学校、家庭が協力していく必要がある。

自己有用感については、「学校に行くことが楽しい」と回答した生徒の割合は高く、良好な結果となった。さらなる自己有用感の向上のためには、今後も家庭・学校における生徒を認める姿勢の一層の向上が求められる。

教科指導については、話し合い活動の充実、ICT 機器の活用、思考力や表現力に繋がる指導において、生徒から高い評価があった。本校で研究指定を受けている総合的な学習の時間での探究型の学習方法が定着しつつある。「総合的な学習の時間」と教科での学び、そして将来の夢や目標とのつながりを意識した教育活動を今後も推進していく。

4 その他

- (1) 基本的な生活習慣の確立は学力の土台になります。本校では多くの生徒が基本的な生活習慣を身につけているので、今後とも「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣を大切にするようにお願いします。
- (2) 学力は、国語、数学、理科だけで測定できるものではありません。文部科学省は本調査により測定できるのは学力の特定の一部であるとしています。本校といたしましても、今後この趣旨を踏まえて、調査結果を分析し、課題の明確化と改善策を検討して、指導の充実に努めてまいります。
- (3) 対象となる3年生には個別の調査結果を別紙「個人票」で配付しています。課題の確認や今後の学習に活用して頂ければと思います。